

一般財団法人 置賜地域地場産業振興センター

令和6年度 事業計画

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

地場産業振興センターとしての役割である地場産業の振興を基本として、地域の多様な資源を活用した商品発掘と販売、情報発信を担う「地域商社」機能を発揮し、ものづくり人材育成、ふるさと納税を活用した地域特産品等のPRと販売、6次産業化の推進による新たな地域資源の創出を図る。

併せて、一般社団法人やまがたアルカディア観光局と連携し、観光まつり事業を実施する長井市観光協会としても観光振興を通じた交流人口の増加につながる事業に取り組む。

観光交流センター「道の駅 川のみなと長井」は、令和5年度から5年間、引き続き指定管理者の指定を受け、農産物、観光資源などの地域資源を発信する長井市の玄関口として管理運営にあたる。観光交流の拠点施設として観光インフォメーション機能の充実に努めていく。また、中心市街地へ移転した「菜なポート」との共同催事を企画し、まちなかへの誘導の基点としての機能を一層発揮できるよう取り組む。物産販売においては、6次産業化をさらに進め、新商品の発掘・開発により商品構成の充実に図る。直売は、「菜なポート」と2店舗運営として、新規生産者の受け入れを行うとともに生産者の組織化によって、生産と販売の連携を推進する体制を強化し、農業者及び事業者の所得向上を図る。

「菜なポート」は、まちなか住民のライフラインとしての役割を引き続き担い、「家庭の冷蔵庫」として農産物・加工品に加え鮮魚、精肉等の生鮮品の品揃えをより一層充実していく。

長井市遊びと学びの交流施設「くるんと」内で営業している「くるんとカフェ(ドトールコーヒーショップ長井くるんと店)」は、地域との繋がりを深めながらお客様に選ばれる店づくりを目指し、「くるんと」来館者への飲食サービス提供による施設の魅力アップを図っていく。

東京事務所を活用した首都圏での販路拡大事業は、これまでの成果や問題点を整理した上で、長井市及びふるさと長井会などとも連携して進める。

ふるさと納税事業は、引き続き長井市と緊密な連携を取り、寄付募集経費率並びに地場産品産地厳格化のルールを順守しつつ、市内業者・農家と一体となった新たなお礼品の企画、地域資源の掘り起こしを通して長井市で掲げた目標を達成できるよう取り組む。

インキュベーション施設であるイノベーションLab.長井i-bayは、個室利用者だけでなく共有スペース利用者増を図り、起業創業を目指す方々が集い、情報交換が行われる場を創造することで起業創業を支援する。

タスパークホテル再整備事業では、令和3年度から令和5年度にかけて、産業振興と観光の拠点としての機能を最大限に発揮できるよう、国及び長井市の財政支援を受け、タスパークホテル1～5F、7～9Fのリノベーションを実施した。本年度では、改修未着手である6Fを含む次期改修に必要な戦略を構築するため、有識者等の知見をお借りし、検討していく。

1. 人材育成事業

地域における人材の育成、技術力の向上、産業交流による地域活性化を図ることを目的に、継続事業の実施と新たな事業展開を図る。地域企業者、教育機関等との産学官連携を図り、ネットワークの拡大と地域への波及効果を上げる取り組みを進める。

また、小学生を対象としてもものづくりの楽しさと科学技術への理解を深める事業も継続する。

(1) 置賜ものづくり地域創生支援事業(山形県・長井市補助事業)

地域において産業を支える若手技術者や次世代ものづくり人材の育成及び産学連携の促進によるものづくり技術力の向上を推進していく。本年度から、県及び市からの補助額上限が縮小したことを受け、事業内容、事業数を見直す。

○目標実施事業数 3事業(令和5年度実績 5事業)

(2) マイクロマウス技術普及啓蒙事業

当センターの特徴的な事業であるマイクロマウスを通じた人材育成事業については、(公財)ニューテクノロジー振興財団、マイクロマウス委員会東北支部との連携を図り、マイクロマウスの普及と関連事業の継続発展を目指す。大会においては、東北地区大会はもとより、他支部大会への参加も視野に入れ、地元マウスのレベルアップを目指す。

① マイクロマウス東北地区大会

東北地区に限らず全国のトップレベルが集う大会を目指して関係者に働きかけを行い、日本各地から数多くの参加を得る。意欲ある地元製作者への支援を行い、長井の産業を支える人材の育成と地域のPRを積極的に行う。集客の観点から、ながい産業博及びナガレンジャー・ファイティングフェスタと同日開催を検討するほか、休止していた「ロボットレース」競技部門の開催も検討する。

- ・開催期日 令和6年10月上旬
- ・会場 タスパークホテル2階 バンケットホール「つむぎ」
- ・競技部門 クラシックマウス競技(フレッシュマンクラス・エキスパートクラス)
マイクロマウス競技ロボットレース競技

② 小学生を対象とした講習会「少年少女ロボットセミナー」

ロボットの製作を通してものづくりの楽しさや難しさを体験する中で、創造力と探究心を養い、向上意欲を図る。

- ・開催期日 令和6年7月～9月頃
- ・会場 タスパークホテル2階 バンケットホール「つむぎ」

○目標参加者数 親子30組(令和5年度実績29組)

③ ナガレンジャー・ファイティングフェスタ

技術者によるロボワンやパイプロボコン等の競技会実施に留まらず、一般来場者向けに多様なロボット・技術の体験と学びの場を提供して、将来のものづくり人材創出を図る。

- ・開催期日 令和6年10月上旬
- ・会場 タスパークホテル2階 コンベンションホール「あいば」

2. 地域活性化事業

タスパークホテルを活用して、地域の活性化に資する事業を施設入居団体と連携して実施していく。

(1) 書き初め大会、ながい雪灯り回廊事業、けん玉普及事業

書き初め大会はお正月の行事として市内書道塾の協力の下実施する。令和5年度は、会場に一堂に会した従来通りの形式に戻したが、提出形式でしか参加できない塾の拾い上げをするため、提出及び当日会場参加双方の形で受け入れる体制を模索していく。

雪灯り回廊事業は、市内各商店街を主要会場とした雪灯り回廊まつりに呼応し、タスパークホテル入居団体が協力して施設周辺にランタンを製作することでまつりを盛り上げる。

けん玉普及事業は、けん玉の魅力PRに努めるとともに、けん玉協会長井支部、山形工房、及び教育機関と連携し、けん玉ペインティングコンテストを引き続き実施する。

(2) ながい産業博開催事業(共催)

長井商工会議所が主催するながい産業博の共催団体として、商工会議所各部会、西置賜産業会等で構成する実行委員会に参画する。i-bayの入居者に積極的な出展を呼びかけ、i-bayのPRを図る(令和5年度実績1社)。事業実施にあたっては、道の駅「川のみなと長井」とも連携した取り組みを行う。

3. 情報発信事業

(1) 地域情報発信事業

置賜地域(主に長井市)のイベント・観光、地場産品に関する情報をSNSを通じて定期的に発信していく。

○目標情報提供数

- ・SNS (Facebook、X、instagram) での発信 週3回程度
- ・メールマガジン発行 月2回

(2) ながいファン倶楽部運営事業

長井を訪れる観光客の増加を目指すため観光やイベント、物に加え、この地で暮らす楽しさや醍醐味など、「人」や「場所」に関わる「魅力ある長井」を積極的に紹介していく。

○目標会員数 3,400人(R6.2月末実績 3,324人)

4. 需要開拓事業

(1) 特産物普及振興事業

① ふるさとショッピング事業

年3回、地場産品の通販チラシを作成・郵送し(対象約850人)、長井の果物・特産品などを全国の方にPR・販売している。商品に関する生産のプロセスや作り手の思いなども含めてSNSで積極的に発信し、デジタル・アナログ双方向での展開で顧客の獲得・維持を図る。

○目標売上金額 8,000千円(R6.2月末実績 7,899千円)

②ふるさと納税関係事業

ふるさと納税関係業務を市から受託して10年目となる。具体的な業務は、納税の受付、記念品の発注、礼状の発送、証明書の発行や確定申告不要のワンストップ特例申請制度の一連作業を行っている。

令和5年10月以降、「寄付額における経費率の見直し」「地場産品基準の厳格化」といったルール変更に伴い、これまで大きな寄附受付シェアを占めてきたビールの受注が消失している。そこで令和6年度は、引き続き取引業者のふるさと納税に対する理解や意識の向上を図り、業者と協力しながら、新たな返礼品の企画等に取り組んでくとともに、お礼品によらない、寄附の使い道や自治体の取り組みへの共感により寄附を集めるふるさと納税本来の趣旨に立ち返ろうという総務省の方針に基づき、ルールの中で、如何に寄付先に選んでもらうかの仕掛けづくりを市と一体となって構築していく。

また、ワンストップ特例申請手続きのオンライン化をはじめとした業務フローの見直し・改善など、より効率的に業務が行える体制づくりを引き続き進めていく。

○ふるさと納税お礼品受注目標 373,500千円
(R6.2月末実績 103,415件、411,900千円)

(2) 首都圏販路確立及び首都圏交流事業

① 東京事務所運営事業

長井市と連携して大田区との交流拡大に取り組むとともに、「ふるさと長井会」運営への協力を通して首都圏の長井市出身者との交流を深めることで、ふるさとへの関心度を高め物産販売やふるさと納税へつなげる。併せて、HPのブログ、フェイスブックによる積極的な情報発信により東京事務所の存在意義を高める。

また、大田区を中心とした催事での物販には積極的に取り組むことで、物産のPRと長井市の認知度向上を図る。

○目標情報発信数
*ブログ 週1回以上
*フェイスブック 週3回以上

② 大都市圏販路拡大事業

東京事務所の機能を最大限に生かし、大田区内に限らず要望のあるイベントへの出店について市内業者の協力を得ながら積極的に実施する。MEGAドン・キホーテ 大森山王店の常設販売は、売れ筋商品を中心とした品揃えとして売上増を目指す。

○目標物産販売出店回数及び金額 18回 3,500千円
(R6.2月末実績 7回 708千円)

5. 施設営業事業

施設の稼働率を高め施設全体の活性化を図るため、長井商工会議所及び長井市と三者共同体制で、施設の強みを生かしたコンベンション機能の充実を含め、官民を挙げた取り組みを目指す。また、施設の老朽化に伴い機械設備、消防保安設備の更新、修理など適切な対応が必要になっている。タス5団体の会議を定期的に開催して修理等の優先順位を検討した上で遅滞なく実施する。

6. インキュベーション施設(イノベーションLab.長井 i-bay)

インキュベーションマネージャー協力のもと、入居者支援等の施設運営を行っていく。本年度は、入居期限等の理由により何社かの企業が退所予定であるため、退所後の支援や、新規会員獲得に向けた新たな取り組みを検討・実施していく。

○目標

- *入居者確保 個室ブースの満室化、共有スペース会員確保、入居者12名以上
(R6.3月実績 13名(社))
- *創業支援 インキュベーションマネージャー個別相談 月1回(各入居者)

7. 長井市観光交流センター(道の駅「川のみなと長井」)運営

道の駅「川のみなと長井」の運営基本方針は、交流人口を活用し、産業振興のきっかけとすることである。観光交流センターが「楽しい出会いがあるところ」といったイメージを定着させ、「寄ってもらい、巡ってもらうための地域に根付いた道の駅」を目指し、地域観光資源と地域住民の交流機会を創出して、観光交流の拠点としての役割を果たす。

また、川のみなと長井にしかない商品を出品者と共に開発すること。又、他地域の道の駅及び、各地の地場産センターとの物的交流を推進して商品力の強化を図り、お客様に対して新たな魅力ある商品と情報を提供する取り組みを積極的に実施していく。

更に、収益改善の一環としてこれまで直営で運営してきた『飲食部門』を㈱Nサポート社に業務委託し、引き続き長井らしさの食の提供・地産地消を目指す。

今年度は外向けへの情報発信力を高める策として、来店動機へのアプローチの強化として『dポイント』を活用し、固定客を重視する販促(回数の増)と不特定多数のお客様へのアプローチに分けた販促の実施。又、電波媒体の活用・チラシ回数の増・情報紙への掲載・SNSの充実を目指す。又、来店されたお客様にはより楽しんでいただくために、前年度の販売情報を活用して、時期に応じた商品構成や販売量、商品陳列・場所の変更など臨機応変に対応して、売り場・商品の活性化を行う。

やまがたアルカディア観光局と連携した取り組みも継続し、SNS等のソーシャルメディアを活用した情報発信の頻度を高め、新たな客層及び地域からの誘客に積極的に取り組んでいく。

○目標売上額 284,180千円

(1)物産直売部門

① 物産部門

お客様に好評を得ている地元商品については、前年までの実績を基に取引先と密に連絡を取り合い、欠品の無いよう準備をする。また、常にお客様のニーズに応じていくことでリピーターの確保に努め、新規取引先の開拓も積極的に行い、新商品・オリジナル商品など、お客様に飽きがないよう商品展開を行っていく。また、タスキオスクへの商品供給フォロー含め、専任担当を配置しきめ細かに対応し、リニューアルに伴う新たな客層への対応も協議しながら進めていく。

それぞれの部門間で連携を密にとり、「おもてなしの心」を大切にしてお客様に喜んでいただくことができるよう接客し、安心してお買い物ができる店舗づくり・充実した品揃えを心掛け、季節感のあるディスプレイで、地元商品を中心に販売促進とPRに努めていく。

また、お客様に満足いただける『長井らしさ』『ここでしか買えない』商品開発につい

て、地元の各出品者と協働で取り組む。

○目標売上額 97,633千円(R6. 2月末実績 90,245千円)

② 直売部門

出品者協議会との連絡を密にし、新規登録者の受け入れを積極的に行う。又、各会員への情報提供（農作物の新品種の勉強会など）を通し、商品の量的拡大と品種の豊富さを目指す。また、今年度も10月に『収穫祭（顔の見える農産物）』を企画実施予定。収穫祭を通じ、地元出品者とその優れた農産物を身近に感じてもらうことで、出品者の所得向上と、固定客（ファン）の増加を目指す。出品者に対しては、高品質の地域農産物の品揃えと安定供給を維持させる努力をお願いし、安全・安心な商品・価格・規格等での密なコミュニケーションを図り売場の充実感を増すようにする。又、高齢者の会員が多くなってきた為、集配業務についてどのような対応ならば可能なのかを検討する。

直売施設に求められることは、農産品・加工品・食文化をはじめとする地域資源を、市民はもとより県内外の観光客に向けて発信し、認知度を高めることにある。接客時には、お客様のニーズに対応して特産品の説明やPRに努め、販売促進とファンづくりを目指す。

特に、伝統野菜に代表されるような地域性の強い商品の量的確保を目指すとともに、6次化商品の開発・販売にも販売する側の意見を積極的に発信していく。菜なポートとは、互いに必要な情報を共有し、多様な客層・ニーズに連携して対応する体制を継続していく。

○目標売上額 186,547千円(R 6.2月末実績 173,057千円)

(2) フードコーナー

令和6年4月より、業務委託による食の提供となるが、引き続き『地産地消』の考え方を取り込んだ商品を提供して頂くように協議している。

(3) まちづくり紹介コーナー

市内で芸術文化活動、地域づくり活動を行っている個人、団体等に呼びかけをしていく。やまがたアルカディア観光局、長井市観光協会と連携して、祭りや文化財などの紹介展示を行う。

○目標イベント開催回数 30回(R6.2月末実績 23回)

(4) 観光インフォメーション

観光インフォメーション機能は、やまがたアルカディア観光局、長井市観光協会が一体となって運営するとともに、黒獅子の里案内人と連携して観光客の街なか誘導に積極的に取り組む。また、観光情報発信の拠点として、市内観光だけでなく広域観光案内機能の充実を図る。

○目標街なか誘導観光客数 10,000人(R6.2月末実績 4,671人)

8. 市民直売所菜なポート運営

市民直売所菜なポートは、「地域農業振興」「地域経済活動の活性化」を目指し、「地元食材を通じた人的交流の場」の役割を担い、「家庭の冷蔵庫」として、従来の農産物・加工品に加え鮮魚・精肉の品揃えを一層充実していく。

本年度は、以下の項目を重点施策として、取込強化を図る。

(1) 出品者参画の直売所運営

出品者が消費者と接し、消費者のニーズを直接把握し、生産意欲向上に結び付ける。

10月「顔の見える生産者直売会」の開催

(2) SNSを活用した情報発信による、固定客づくり

常時情報を発信し、若い世代の顧客を獲得し、老若男女幅広い固定客づくりを目指す。

(3) 定期的なイベントの実施

ゴールデンウィーク・お盆・周年祭・年末等各種イベントを開催し、集客を図る。

4月 川のみなと長井7周年協賛イベント

8月 菜なポートお盆市

10月 菜なポート移転5周年感謝祭

1月 菜なポート初売り

2月 雪灯り回廊本町商店街イベント

(4) 商店街との連携強化

本町商店街と情報共有し、積極的に各種事業に参加し商店街全体の活性化を推進する。

(5) 道の駅「川のみなと長井」との連携強化

「川のみなと長井」と各種イベントを共同開催し、商圏の拡大を図り「ながいファン」増加を目指す。

○目標売上額 313,360千円 (R6.2月末実績 289,717千円)

9. くるんとカフェ(ドトールコーヒーショップ長井くるんと店)運営

フランチャイズ方式で長井市遊びと学びの交流施設「くるんと」内に店舗を構えるドトールコーヒーショップ長井くるんと店は、「一杯のおいしいコーヒーを通じて、お客様にやすらぎと活力を提供する」という(株)ドトールコーヒーの掲げる経営理念を基盤にして、「くるんと」来館者への飲食サービス提供による施設の魅力アップを図っていく。

本年度は、以下の項目を重点施策として、取込強化を図る。

(1) 地域との繋がりを深める

店内の営業のみに終始せず、「くるんと」施設内外で子ども向けイベントやコーヒー教室、外販などの催事を積極的に実施していき、ドトールの知名度・存在感を高めていくことでより多くの顧客接点を生み出していく。

(2) おもてなし力の強化

(株)ドトールコーヒー主催の接客コンテスト参加を通じて、スタッフ全体の接客スキル等の底上げを図り、「お客様に選ばれる店づくり」を目指していく。

○目標売上額 36,500千円

10. デジタル地域通貨「ながいコイン」運営

長井市からの委託を受けて市内限定で利用可能なデジタル地域通貨「ながいコイン」を運営するに当たり、ながいコインカードの作成や必要な印刷物の作成、ながいコイン販売店からの現金の回収、システム提供者への入金手続きなどを行い、スマートシティ長井の実現に向けた取り組みを推進する。

11. 長井まちづくり基金

令和元年度末の基金残高は約87万円で、民間都市開発推進機構拠出分は、平成27年度で無くなった。これまでの助成報告書をまとめ公表する。また、基金残の運用を検討する。

| | | |
|---------|------------------|------------------|
| 【基金の状況】 | ・令和 4年度末基金残高(予定) | 87万円 |
| | ・残高内訳 | 民間都市開発推進機構拠出分 0円 |
| | | 市及び市民・事業所拠出分 0円 |

12. 中心市街地活性化に関する事業

中心市街地整備推進機構として、中心市街地活性化協議会運営で商工会議所と連携するとともに、事業実施にあたっての具体的な係わり方について関係機関等と調整していく。

また、第2期長井市中心市街地活性化基本計画に「タスビル整備事業」が追加されたことにより、地元住民だけでなく、市外からの集客が期待でき、中心市街地への来訪者を増加させ賑わいの創出に繋げていく。

13. タスパークホテルの再整備に関する事業

令和3年度から令和5年度にかけては、産業振興と観光の拠点としての機能を最大限に発揮できるよう、国及び長井市の財政支援を受け、タスパークホテル1～5F、7～9Fのリノベーションを実施した。

本年度では、改修未着手である6Fを含む次期改修に必要な戦略を構築するため、株式会社三菱総合研究所等、有識者の知見をお借りし、改修方針を検討していく。

14. 観光振興に関する事業

(1) 長井市観光協会事務局

令和6年度については、観光客も本格的に動き始めており、新たな戦略・変革も必要な要素であると捉え、観光産業の付加価値を更に高められるよう地域経済の活性化に繋げ、地域と観光旅行者が互いにメリットを感じられる持続可能な観光地づくりを推進していく。

特に、順調な回復を見せている家族単位や少人数グループに関しては、受入環境整備の更なる充実を図り、低迷している団体ツアー等については、やまがたアルカディア観光局と連携した取り組みを展開し、回復と交流人口の拡大に努めていく。

今年度は、下記の事項について重要施策としての取り組み強化を図る。

- 1 長井市制施行70周年記念事業
〈まつり事業連携と新たな成長・市民参加と満足度〉
- 2 個人客（県内及び隣接県）をターゲットにした広報戦略
〈SNSを活用した定期情報発信の強化継続と四季を通じたリピート率の向上〉

3 観光サービスの質の向上と経済波及効果

〈人材育成と各分野との連携強化〉

1) 基本施策

①まつり事業の魅力創出

まつり事業の更なる充実と地域の特色ある「食」や「物産」等地、地場産業への波及効果を高めた観光振興に努める。

②観光案内・受入体制整備の充実

やまがたアルカディア観光局との情報共有を強化し、誘客事業並びに受入態勢を更に進展させるとともに、総合観光案内業務の充実を確立させ交流人口の拡大を目指す。
道の駅川のみなと長井との相乗効果が得られるよう着地情報提供を充実させる。

③地域住民の主体性・地域力の推進

地域ぐるみ型観光サービスの取り組みを推進するため、市民参加による賑わい作りを積極的に支援する。

4 広域連携の推進

首都圏をはじめ隣接県、訪日外国人観光客の誘致促進と受入体制の整備について、置賜地域内の情報共有に努め、連携した取り組みを更に強化した事業推進を図る。

⑤観光協会組織強化・人材育成強化

会員事業所様の観光に対する意識の向上図り、ご支援を頂きながら地域経済への波及効果を高めるため、更なる会員増強を目指した事業展開と人材育成を強化する。

2) まつり事業日程(予定)

◆花を中心とした事業

- ・置賜さくら回廊 期間／4月上旬～ ※4/4(木) 開幕セレモニー(白鷹町)
2市1町での連携及び受入態勢強化・売店支援
- ・白つつじまつり 期間／5月10日(金)～31(金)
- ・あやめまつり 期間／6月10日(月)～7月7日(日)
- ・食の祭典 期日／6月下旬
※長井の「食・土産物」に特化した企画

◆伝統と資源を活かした事業

- ・ながい黒獅子まつり 期日／5月18日(土) 【第34回】
※白つつじ市民マラソン 同日開催(午前中)
- ・ながい水まつり 期日／8月 3日(土) 【第29回】
最上川花火大会

◆長井おどりパレード

- 期日／8月10日(土) 【第13回】 ※例年7月第一土曜日
70周年の記念事業を絡め、長井おどりと併せて市民パレードを検討
- ・ステージアトラクション／プロジェクションマッピング
くるんと1周年のコラボ企画／飲食店舗・エリア設置など
 - ・実施会場については、長井市役所駐車場・くるんと周辺として、パレードコースは、本町大通り・駅前通りを想定

3) 観光宣伝と観光客誘致事業

やまがたアルカディア観光局との取り組みをより推進しながら、まつり事業の充実を図り、当地域独特の観光資源を活かしたイベントの磨き上げ、滞在型交流人口増加に向けた受入態勢の進展に努める。

また、SNSの活用を更に強化し、定期的な情報提供と情報の一元化に努め、総合的な観光案内業務の取り組みについても共有を図る。

- ・広報物作成

長井市総合パンフレット／観光誘客ポスター作製（長井を外部の方に知って頂く工夫）

- ・観光誘客

置賜さくら回廊観光推進会議、置賜地域インバウンド促進会議と連携したアプローチと情報共有に努める。

インバウンド事業についても回復傾向にあり、今後においては、旅行商品造成も更に進展していくことから観光交流の基盤の回復に向けた取り組みを実践していく。

- ・都市交流

フラワー都市交流総会への参加。

姉妹都市結城市での物産販売において、地域特産物の紹介と共に交流を深めながらより広くPRできる場として積極的に推進する。

4) 観光美化推進事業

- ・長井市花いっぱいの街づくり推進事業（愛称：花いっぱい運動）の実施において、当協会もまちなかの景観創造として「花の長井」の文字通り更なるイメージ向上を図る支援事業と、参加団体の活動の継続と今後への更なる奨励、また、より多くの市民参加の意欲高めるため、団体賞を授与し周知をより浸透させていく。

5) 冬季観光推進事業

- ・ながい雪灯り回廊まつり 期日／令和7年2月3日(土) 【第22回】

やまがた冬のあった回廊キャンペーン実行委員会と置賜地域全体での広域連携を更に推進し周知拡大に努める。また、より多くの市民の皆様が参画できる体制を構築し、市民主体の手づくり感あふれるまつりとして地域の良さを全面にアピールし、各商店街や地域との連携を強め魅力の創出を推進する。

6) 広域観光協議会への参画

山形県及び置賜広域観光協議会に継続的に参画するとともに広域連携の体制整備の強化と情報交換・共有に努める。

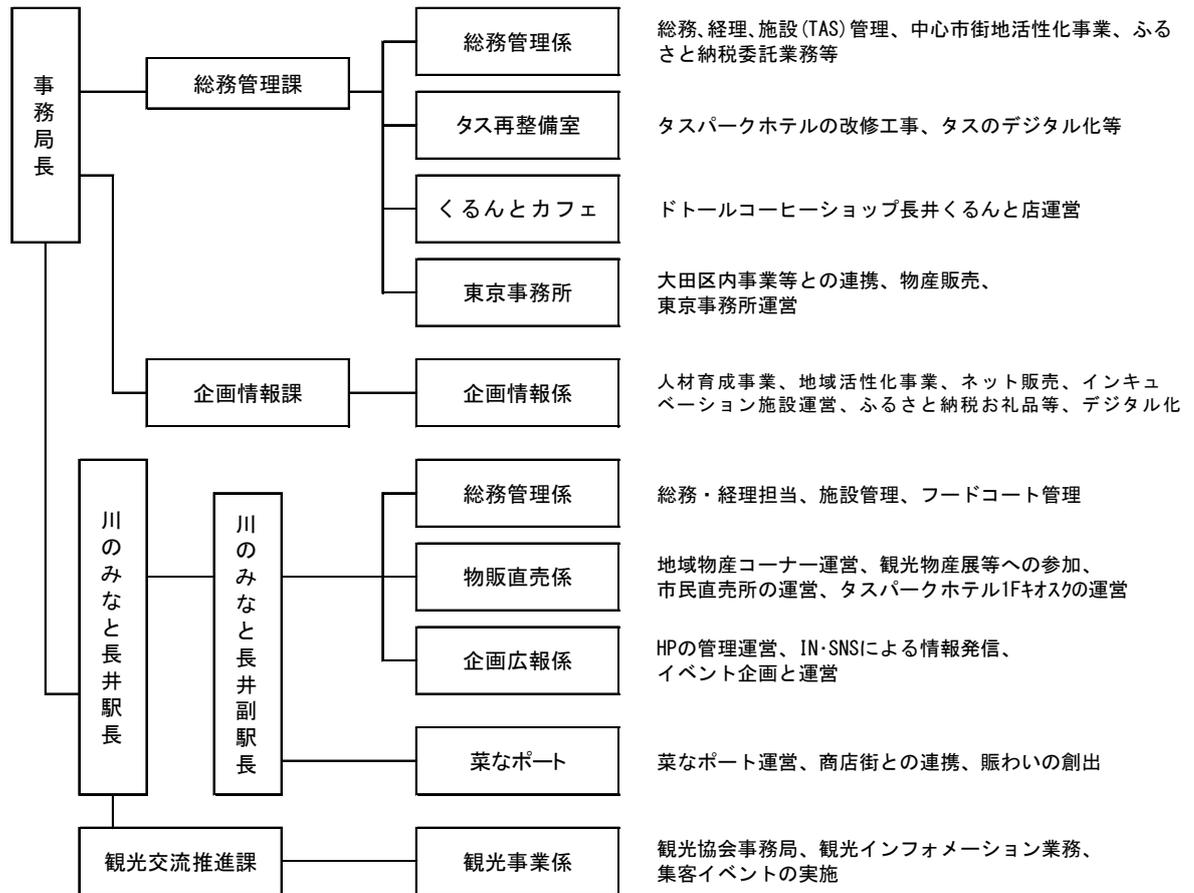
15. 事務局組織

地場産業振興センターの事業所は、タスパークホテル内（総務管理課と企画情報課）、道の駅川のみなと長井、菜なポート、長井市遊びと学びの交流施設内（ドトールコーヒーショップ長井くるんと店）の4所に分かれての組織運営であることから、各事業所間の綿密な情報の共有と連携が重要な課題となる。

また、本年度採用正規職員である総合職1名・専門職1名が加わり、全職員数は50名となる。組織のガバナンス確保のため、部門毎に正規職員を配置するとともに、部門毎の定期的な調整会議と係長級以上による内部調整会議を都度開催して情報の共有と連携を図る。

なお、正規職員に関しては既存スタッフの内部登用も含めた計画的な採用を進め、引き続き各部門に正規職員を複数配置する体制を整えていく。

令和6年度 事務局組織及び人事配置



《職員の内訳》

- ・常勤理事 1名
- ・総合職 7名 (本年度新規採用1名含む)
- ・専門職 9名 (本年度新規採用1名含む)
- ・市派遣 3名
- ・特任職 3名
- ・再雇用 2名
- ・定型スタッフ(無期) 5名
- ・ " (有期) 9名
- ・パートスタッフ 11名

計50名